

＜自己評価1回目＞

補助事業者名	社会福祉法人あかり福祉会	事業項目名	特殊浴槽の整備
--------	--------------	-------	---------

JKA補助事業 2026 年度 自己評価書

補助事業の自己評価

(a) 個別項目評価

作成日	2026	年	9	月	7	日	作成者	事務
-----	------	---	---	---	---	---	-----	----

●個別の評価項目について、事前計画書の達成状況等を把握し、分析・評価してください。						
(1) 受益者とそのニーズ		2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
(2) 事業内容		デイサービスセンターはっぴいあかりに特殊浴槽一式(株式会社アマノ「シャトルフィット(新湯タイプ)」A88F)を整備した。従来の特殊浴槽から更新し、ご利用者の入浴時の体位安定、身体的負担の軽減、安全で快適な入浴環境の確保と、介護職員の介助負担・不安の軽減を図った。7月9日に検収し、導入後は入浴サービスに活用している。				
	実施計画・体制	事前計画書の実施体制に基づき、介護職を事業実施メンバー、管理者を責任者として実施した。介護主任・正職員が機器の使用方法的の周知と業務内容の調整、管理者が安全管理、管理者・正職員が効果的な活用方法の確認を担当した。導入時に介護職員に操作研修及び安全確認を行い、入浴サービスを開始した。				採点 4
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				採点
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2026年7月	[達成状況] 100%	[具体的内容] 事前計画では導入時期を2026年8月としていたが、納期が早まり、7月9日に検収・導入した。計画していた特殊浴槽一式の整備を予定時期より早く完了し、利用を開始した。	採点 4	
	事業の成果・波及	[達成値] 約98回／月 (8/26時点換算)	[達成状況] 67.6%	[具体的内容] 事前計画の目標は月145回(1日平均約5.5名、月26日稼働)。8月26日時点の実績は83回(22稼働日)で、月26日換算では約98回となり、達成状況は67.6%であった。なお、特浴実績は申請時の3月150回・4月166回から、導入前の5月138回、6月99回へ既に減少していた。主な理由は、ご利用者の死亡、施設入所、入院により特浴対象者が減少したことであり、機器導入を契機とした減少ではない。一方、ご利用者アンケートでは安心感89%、身体の楽さ89%、快適性100%、介助の受けやすさ100%、満足度89%、職員アンケートでは安全性向上85%、介助負担軽減62%であり、安全性・快適性等の導入効果は確認できた。職員側の介助時の安全性にかかる不安要素については、今後の研鑽と検証により軽減し、次の評価に反映できるよう努める。	採点 2	
(4) 広報計画	事業の実施結果	[達成値] 1. 1回 2. 1回 3. 1回	[達成状況] 1. 100% 2. 100% 3. 100%	[具体的内容] 1. 法人ホームページのトップページに、競輪・オートレースの補助事業であることを明示した「補助事業完了のお知らせ」を掲載した。 2. 法人Facebookで補助事業の実施内容を掲載した。 3. 施設Instagramで補助事業の実施内容を掲載した。	採点 4	
(5) 自己評価の体制		ご利用者9名・職員13名を対象にアンケートを実施し、7月13日～8月8日に回答を収集、8月17日に集計した。8月26日に、衣笠本部長、坂田センター長、島袋介護主任、事務でアンケート集計結果及び利用実績をもとに自己評価を行い、評価過程を記録した。事前計画書に記載した法人評議会によるアンケート評価は評議会開催日程と合わず、第1回自己評価時点では未実施である。今後導入機器を確認いただく機会を設け、第2回自己評価に反映する予定である。				採点 3

(b) 総合評価

●(a)個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。		総合 評価点	3
(1) 事業全体についての意見・所感	特殊浴槽は計画した時期より早く導入でき、事前計画に沿った体制で入浴サービスを開始した。ご利用者アンケートでは安心感・身体の楽さ各89%、快適性・介助の受けやすさ各100%と高い評価が得られた。職員からも安全性の向上や介助負担の軽減について一定の評価が得られた一方、細かな運用面では課題が残った。利用回数は目標の月145回を下回ったが、導入前から死亡、施設入所、入院により特浴対象者が減少していたことが主因であり、機器導入後に生じた減少ではない。安全で快適な入浴環境の整備という事業目的については、一定の成果が得られたと評価する。		
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	優れている点は、ご利用者の快適性100%、介助の受けやすさ100%など、ご利用者側の評価が高く、職員も85%が安全性の向上を感じている点である。一方、職員からは車椅子から特殊浴槽への移乗のしにくさ、2名対応となる場合があること、排湯に時間を要すること、腕の位置への注意等が挙げられた。今後は安全な移乗方法や注意事項を職員間で共有し、運用面の改善を図る。		
(3)その他アピールしたい点是非知ってもらいたい点	導入前から特浴対象となるご利用者数が減少する中でも、新しい特殊浴槽に対するご利用者の評価は高く、安心・快適な入浴環境の確保につながった。今後も利用状況とご利用者・職員の意見を継続して確認し、法人評議会による評価も加えて第2回自己評価につなげる。		

<自己評価1回目>

補助事業者名	社会福祉法人あかり福祉会	事業項目名	特殊浴槽の整備
--------	--------------	-------	---------

JKA補助事業 2026 年度 自己評価書

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費		
	＊		(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)	事前計画書で役割を定め、管理者、介護主任、正職員を中心に使用方法の周知、安全管理、効果的な活用方法の確認を行ったことで、導入後の運用を円滑に開始できた。	
	＊		(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)	特殊浴槽一式について、予定していた機器を円滑に調達することができた。また、当初の導入予定である2026年8月より納期が早まり、7月9日に検収・導入することができたため、予定より早く運用を開始することができた。	
			(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因		＊	(8) 受益者の規模・ニーズ	申請時の特浴実績は3月150回、4月166回であったが、導入前の5月138回、6月99回へ減少した。ご利用者の死亡、施設入所、入院により、特浴を必要とする対象者そのものが減少したことが、月145回の利用目標達成を阻害する外部要因となった。	対象となるご利用者数の変動を踏まえ、月ごとの稼働日数・利用回数を継続して確認する。第2回自己評価では、その後の利用状況とご利用者・職員・法人評議会の評価をあわせて検証する。
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
			(15) その他		
			(16) 特になし		